

一般社団法人 鳴門板野青年会議所
2022年度 広報力強化推進委員会

副理事長 縄田 浩明

委員長 今津 博光

現 状 分 析	鳴門板野J Cが企画した事業自体の認知度は上がってきているが、主催者が誰か認知されていない事から鳴門板野J Cの認知度を上げるためにも広報手段を検討する必要性を感じます。また、鳴門、板野地区には観光資源が豊富に点在していますがその多くは県外の方や地域外の方には周知されていない事が多い現状から、地域の魅力を我々が中心となり発信していく手段を模索する必要があります。そして、近年多発している集中豪雨や30年以内に起こるとされている南海トラフ地震等の発災時に我々が地域のリーダーとなり行動するためには、行政や社協との連携を強固にする必要があると考えます。
目指すべき状態	各SNSを活用し鳴門板野J Cの魅力や地域の魅力を発信することにより、広報活動の土台と考えているInstagramのフォロワー数1000人を目指します。近年人気の高まっているサイクリングを広報媒体にすることにより、各方面のメディアへの露出も高まり地域のあまり知られていない魅力が対内外の多くの方に認知されまち全体が盛り上がるようにします。他団体と防災連携することで、発災時その縁を生かしメンバーが多方面と素早く連絡を取り合い周辺状況を把握し臨機応変に対応できる状況を目指します。
連 携 概 要	<p>■各SNSを用いての鳴門板野J Cの広報活動の強化及び担当委員会と連携しながらの広報手段の模索 鳴門板野J Cの魅力や活動内容を一人でも多くの方に認知していただき、改めて鳴門板野J Cを好きになっていただくと共に、一人でも多くのファンを獲得することを目的とし、我々メンバー間の心の距離が近づきあまりJ C活動に参加していないメンバーに対しても「あ！J C楽しそうだな！」と思ってもらい、活動への参加率UPを目的とします。</p> <p>■まちの魅力を発信する広報事業・例会の企画・設営 観光地や土産物店、地域の知る人みぞ知る有名店など地域の魅力あるスポットを活用することで、まだ知られていないこのまちの魅力を様々な媒体や事業を通して発信することを目的とし、またメンバーもより一丸となり各々の知る地域の魅力を共有することで一人ひとりが主体性を持ちまちの魅力を発信できる人になることを目的とします。</p> <p>■他団体との防災連携につながる例会の実施 他団体との防災連携により、予想外の災害が発生した際に多方面と連絡を取り合うことができ周囲の情報を少しでも「多く」「早く」得ることで、急な状況の変化にも素早く対応できるような団体となることで地域の皆様の事をサポートできる防災知識を身につけ、かつ我々がより動きやすい環境を作る事を目的とします。</p>
S D G s	3、9、17
政 策 手 法	<p>■各SNSを用いての鳴門板野J Cの広報活動の強化及び担当委員会と連携しながらの広報手段の模索 近年スマホや通信手段の発達、普及により急速にSNS社会へと世の中が移り変わっています。我々鳴門板野J Cとしても従来の新聞やラジオなどのメディアだけに頼らず、SNSをより活用して日ごろの我々の活動や取り組みを対外の皆様に伝え、鳴門板野J Cの魅力を一人でも多くの方々に知ってもらうため各委員会と連携しながら社会環境の変化に適応するための手法として、現代の忙しい社会でも隙間時間に手軽に見ることのできるInstagramがより生きる広報活動を行います。</p> <p>■まちの魅力を発信する広報事業・例会の企画・設営 現在、大鳴門橋の下の自転車道が開通に向けて進んでいます。全国的にもサイクリングの人气が高まってきており、徳島近隣にもサイクリングロードが整備され多方面からサイクリストが訪れていることで観光業を始めとする地域経済の流れが活発になってきています。そこで、広報の手段として気運の高まっているサイクリングを活用し、サイクリストの方々がこの地のいろいろな魅力あるスポットを巡ってもらい様々な媒体に投稿してもらうことで不特定多数の方々にまちの魅力を発信してもらえる事業を企画します。</p> <p>■他団体との防災連携につながる例会の実施 近年日本各地で突発的な自然災害が多発しています。我々の活動エリアもいつ自然災害が降りかかってもおかしくはありません。そこで、我々の活動エリアにある緊急時の支援物資の確認や避難先の確認、又その施設の担当者や関係者の方々と迅速に連絡を取れる連絡網の構築ができるような例会を計画します。また、昨年新型コロナウイルスの為行えなかった三者間協定を締結するべくネットワーク会議を行います。</p>
パ ー ト ナ ー	鳴門市、CYCLE SPACE UZU、鳴門市社会福祉協議会